

朧月夜の里のイメージで

菜の花さかせるかいの活動

菜の花さかせるかいは、飯山市の瑞穂地区にある丘に、朧月夜の里にふさわしい奥信濃の田園風景の再現し、また、創出するために、休耕地に菜の花を咲かせ、地域の活性化を担っている。

現在、かいの会員は、地元地区を中心に41人である。

また、地元の中高校生が中心となる「菜の花すくーる」が、菜の花をさかせるため、また、祭りに参加し、盛り上げている。

夏には、種の採取を行う一方で、草刈や、肥料まきと土づくりを行い、いよいよ種まきとなる。

豪雪の時は、開花時期を間に合わせるため、残雪対策にも余念がない。

菜の花まつり

開催時期には、約9haの菜の花まつりの会場の丘が、菜の花の黄色い絨毯となる。この丘からは、その黄色の絨毯の奥に、千曲川のゆっくりとした流れがあり、そして遠方には残雪が残る山々と、眺めがとてもよく、朧月夜の里の春の彩を感じられる。

菜の花まつりの期間中は、多数の方が来場される。遠方から来られる方もいる。菜の花のある風景のほか、地元の野菜や味を楽しんでいく。菜の花や食を通じて、ちょっとした交流が始まる。

かいの会員と菜の花すくーるの中高校生は、駐車場の管理、売店の担当、案内、会場の清掃、ごみ片づけ等、期間中は、てんやわんやとなる。しかし、無事に終わると、また来年もよい風景を作ろうと思う。また来る人の笑顔がみられるので。

ちなみに、平成25年は、この菜の花まつりの30周年の節目となり、ちょっとした企画を考えている。



【報告：北信地方事務所農政課】